

発達に違いのある子どもたち

「そろそろ文字の読み書きができるはずなのに」前編

新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校で、今年度の学校は遅れはせながらのスタートとなりました。期待を胸に小学校に入学した子ども達も、すぐに長時間の授業に入り、短い夏休みのあとに始まった2学期、STEイホーム期間から一気に怒涛のような日々に入りましたのではないのでしょうか。

1年生の2学期といえば、ひらがな、カタカナに加え、教科書には漢字もちらほら出てくる頃だと思えますが、まだひらがなも、繰り返し書いてもしばらくすると忘れてしまう、正しい形にならない、鏡文字になってしまう、書き順が覚えられないというような子ども達もいるのではないのでしょうか。今回は、「読めない、書けない子ども側の事情」についてお伝えできればと思います。

文字の読み書きが苦手な子の幼児期

文字の習得につまずく子どもの中には、幼児期に次のようなことが起こっていたかもしれません。

「動いているおもちゃを目で追うこと、取ることが苦手。」「指先を使った細かい遊びや作業はあまり好きでない。」「つまずいたり、物や人にぶつかったりすることが多い。」「ぬり絵やなぞ

り書きが苦手。」「ひとつのおもちゃで遊ぶ時間が短くすぐに飽きてしまう。」「目に見える位置の衣服のボタンとめはずしが苦手。」「絵本などを見るとき細かい部分に気づかない。」「下り階段や平均台などの段差のある場所を怖がる。」「先生の示す見本や、周りの子どもの様子を見て行動することができない。」「物を見るとき必要以上に顔を近づける。」など。

文字の読み書きに必要な能力

文字が書けるようになるには、まず「見る力」が必要です。ただ「見る」といっても、視力の問題だけではありませぬ。①目から情報を取り込むための目の機能、②目から取り込んだ情報を理解する機能、③他の感覚機能や運動機能と連動する能力など、「見る力」とは多岐にわたります。これらを「視覚関連基礎スキル」と呼びます。文字の読み書きが苦手な子の幼児期に見られた前述の特徴は、すべてこの「視覚関連基礎スキル」に関わるものです。

読み書きのための目や身体の働き

文字を見てその形を覚えていくには、まずはその文字がどのような形をして

いるのかを捉えなければならず、そのためには、「視線(両眼)を見たいものに向ける」力、それと同時に「両目のチームワークを保って遠近感を把握する」、「ピントを合わせて物を見る」などの力を使い、その文字を単独ではつきり焦点を合わせて見る必要があります。これらの力は文字を読む時に重要であり、これらに弱さがある子どもは「見る」ことが簡単ではなく、「見る」ために人一倍エネルギーを要します。また、学習の効率を低下させるだけでなく、集中力や注意力にも大きく影響します。

次に、見えた全ての情報の中から必要な情報のみを取り出し、その位置や距離、それが何なのかを理解するため脳の中で分析する必要があります。そのような情報処理能力には、「目に入る情報の大事な部分に注目し、不必要な部分は無視する力」「位置や空間を捉える力」「見た物を頭にイメージする力」などが含まれます。「不必要な部分を無視」できないと、目的の文字の要素以外(周囲にある線や模様、裏紙など)を使っていれは裏の文字や模様、並ぶ他の文字との区切りなどとの区別ができないことがあります。

文字を見て認識したあととは、書かれために運動機能、感覚機能と連動させなければなりません。感覚機能には、体の傾きやスピードを感じる「前庭感覚」、体の動きや手足の状態の情報を得る「固有感覚」などがあり、これらは運動機能と密接に連携を取っています。例えば、適切な筆圧で書くには、

どのくらい身体を傾けて鉛筆に体重をかけ、さらに滑らかに書くには、どのくらいの強さで握り、その形を保ちながら筋肉や関節を動かすか、それらは目で確認する必要がある。「眼球運動」とも協調する必要があります。

子どもが「困難さ」を表すとき

文字の読み書きは、子ども側のさまざまな事情により、大人が思うほど簡単なことではない場合があります。しかし、低学年の子どもやコミュニケーションが苦手な子どもは、そのことを適切なことばで表現して周囲の大人に伝えることは非常に困難です。もしかしたら、「自分は困っている」ということを、親に甘えたり、そわそわして落ち着かなかつたり、やっていることを投げ出したりという形で表しているかもしれません。子どもの行為は、そのものが「悪いこと」であっても、何か言えないことでの表現であることもあります。行為の裏側には何があるのか、注意深く観察する必要がありますでしょう。

今回は、子どもの読み書きに関わる基礎的能力についてさらに深めたいと思います。

参考文献

「見る力」を育てるビジョン・アセスメントWAVES(学研)

